

小規模企業景気動向調査

[2021年11月期調査]

～コロナ禍以前の水準に戻るも、仕入価格高騰など厳しい状況が続く小規模企業景況～

2021年12月24日
全国商工会連合会

<調査概要>

調査対象：全国約300商工会の経営指導員

調査時点：2021年11月末

調査方法：対象商工会経営指導員による調査票への選択記入式

<産業全体> ◇…コロナ禍以前の水準に戻るも、仕入価格高騰など厳しい状況が続く小規模企業景況…◇

11月期の小規模企業の業況DIは、採算DI以外は小幅な改善となる一方、採算DIは小幅な悪化となった。業況DIはコロナ禍前の2020年1月期の水準を上回るまで改善したが、あくまでも前年対比であることは留意するべきである。情報連絡員からは、第6波に懸念する声や、原材料高などによる仕入れ価格の上昇が、経営を圧迫の兆候が見られているとの声が多数あった。また、半導体不足やウツショック等による建築資材の不足といった影響が、製造業や建設業を中心に、なお悪影響を及ぼしており、一定数の事業者が苦慮している。

<製造業> ◇…受注は好調も、半導体や原材料不足の影響で、採算が悪化している製造業…◇

製造業は、業況DIは小幅な改善となり、売上額・資金繰りDIはほぼ横ばいであったが、採算DIは大幅な悪化となった。食料品製造関連は売上は好調であるが、原材料高が続き、収支バランスを保つことに苦慮しているとの声が目立った。機械・金属関連は、半導体不足による影響を受け減産や生産停止となり、売上が大きく減少する事業所もいるとのコメントがあった。また、原材料高や原材料不足に苦しむ事業者は、売上はキープできても、利益が確保できない状況にあるとの指摘もあった。繊維関係は売上は好調も、燃料費高騰の影響で採算の確保に苦しむ事業者もいるとのコメントがあった。

<建設業> ◇…材料の仕入価格高騰が続き、採算に苦しむ建設業…◇

建設業は、5月期以来厳しい状況が続く採算DIが5pt近い悪化になった。採算DI以外はほぼ横ばいであった。情報連絡員から、引き続き、年度末に向けた公共工事の発注やリフォーム需要、一部地域では冬季前の駆け込み工事や災害復旧工事により受注は好調との声があった。しかし、原材料や原油の高騰や資材や人材の不足の影響は続いており、採算は厳しく、また、来年も見通しが不明であるとのコメントが目立った。

<小売業> ◇…若干上向も、仕入価格高騰等により懸念材料が絶えない小売業…◇

小売業は、採算DI以外は小幅な改善となったが、採算DIは横ばいとなった。一部の地域では、行政が消費喚起策を実施したが、事業者間で効果の差が大きかったとのコメントもあるが、全体的には、昨年同時期の感染症拡大時期と比較すると回復は見せている。食料品関連は、仕入価格が高騰したが、小売価格に転嫁しにくく、採算が悪化している。衣料品関連は、消費者の動きは鈍化する一方で、ネット需要が大きく伸びており、顧客が戻ってこないとの声が目立った。耐久消費財関連は、品不足により機会損失が発生しているとのコメントがあった。

<サービス業> ◇…3ヵ月連続で改善するも、燃料費等仕入価格高騰に不安が残るサービス業…◇

サービス業は、売上額・業況DIは大幅な改善となり、採算・資金繰りDIは小幅な改善となった。また、全DIが産業全体のDIを上回った。宿泊業は、感染状況が好転したことや旅行支援策の効果もあり、回復傾向にあるものの、原油価格や原材料価格高騰の影響がある中で、料金改定をしないよう工夫し、どうにか戻りつつある客足を確保している状況とのコメントが目立った。洗濯業関連も、冬を迎えて燃料費高騰が採算悪化につながることを懸念する声があった。

業種	産業全体			製造業			建設業		
	10月	11月	前月比	10月	11月	前月比	10月	11月	前月比
売上額	▲ 14.8	▲ 11.9	2.9	▲ 11.7	▲ 10.9	0.8	▲ 9.6	▲ 8.1	1.5
採算	▲ 34.3	▲ 36.4	▲ 2.1	▲ 36.4	▲ 41.7	▲ 5.3	▲ 36.1	▲ 40.5	▲ 4.4
資金繰り	▲ 30.3	▲ 28.5	1.8	▲ 32.2	▲ 30.4	1.8	▲ 30.7	▲ 30.1	0.6
業況	▲ 27.9	▲ 25.1	2.8	▲ 28.8	▲ 25.6	3.2	▲ 27.0	▲ 25.9	1.1

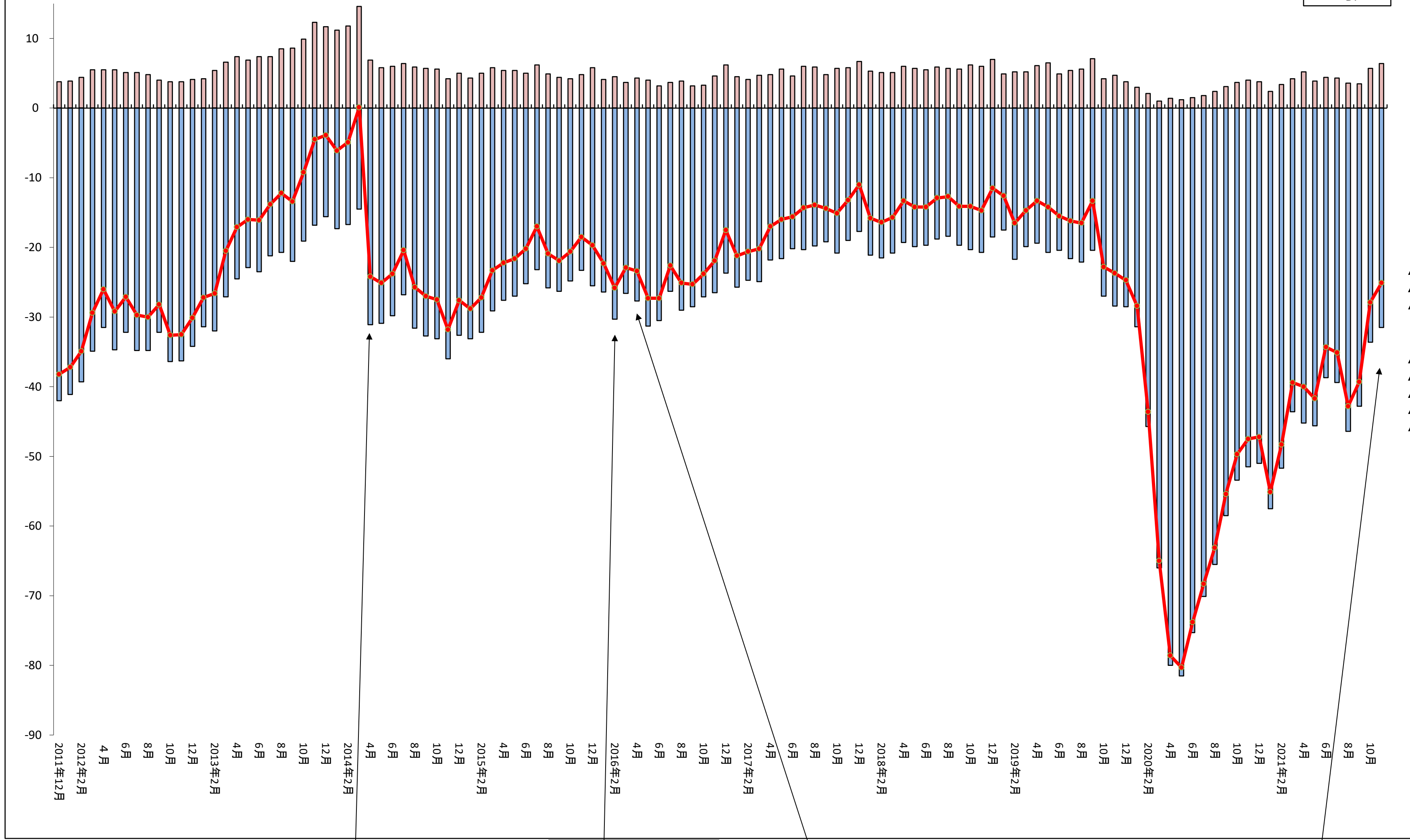
業種	小売業			サービス業		
	10月	11月	前月比	10月	11月	前月比
売上額	▲ 20.9	▲ 18.5	2.4	▲ 17.1	▲ 10.2	6.9
採算	▲ 33.3	▲ 33.3	0.0	▲ 31.6	▲ 30.1	1.5
資金繰り	▲ 29.6	▲ 27.9	1.7	▲ 28.4	▲ 25.9	2.5
業況	▲ 29.3	▲ 27.6	1.7	▲ 26.5	▲ 21.0	5.5

注) DI (景気動向指数) は各調査項目について、増加(好転)企業割合から減少(悪化)企業割合を差し引いた値を示す。

小規模企業景気動向調査(月次)

産業全体の業況…過去10年のトレンド…

■ 悪化
■ 好転
● DI



14年4月
消費税率8%に引上げ
(-24.2)

16年2月16日
日銀マイナス金利導入
(-25.8)

16年4月
熊本地震(-23.4)

21年11月
(-25.1)

小規模企業景気動向調査(11月期)における商工会経営指導員の主なコメント

*コメントについては、経営指導員回答の原文を掲載。

1. 景気全般

<改善傾向を示すコメント>

感染が落ち着いた事もあり、全般的には消費が動いてきた感が有るが、飲食業の特に夜間営業中心店は売上の回復が遅く厳しい。ただし、月次支援金等の支給も有り当町のような規模の小さい飲食業は支援金で業態を保っている。全般的には回復基調を感じているようだ。

(小平町商工会)

コロナ感染拡大が減少傾向にあることで市場に動きが出てきている。しかし、ガソリン価格の高騰が続いていることから今後原材料費などの値上げによって採算がやや悪化する懸念もある。

(羽咋市商工会)

コロナウィルス感染者の数が減少している中、街にも少しにぎやかさが戻ってきている。それに伴い昨年同月に比べると景気は良くなっているような感じを受ける。

(わかさ東商工会)

11月度の市内経済活動は、全般的に持ち直しに向かいつつある。10月下旬の緊急事態宣言解除後も感染者数が低位で推移していることもあり、飲食や宿泊など外出関連業種を含め、経済活動の再開が進んでいる感じが受け取れる。感染者数の低数維持と経済活動の両立がさらに促進され、いままで消費できずにいた個人消費の力強い回復に期待感を持っている。只、製造業においては、注文があるものの原材料や部品の価格も上昇してきたところに、半導体以外でも部品が不足しがちとなり、稼働率を上げられなくなるなどで納期が遅れ気味となっており、製造需要の増加に対する恩恵を受けられない状況が、コロナ禍からの回復基調の足かせになっている。

(川西市商工会)

日本においてはコロナが落ち着いていることから、全体的に消費が回復傾向にある。ただ、コロナの影響で人々のマインドが変化しており、かつてのように忘年会や懇親会の需要がどこまで回復するかは不透明である。飲食店を中心に厳しい状況が続くと思われる。これらを見据えた販売戦略やコロナの感染状況を踏まえた中長期的な事業展開が求められている。

(備前東商工会 吉永支所)

観光業が基幹産業であるため、コロナ禍情勢に大きく影響される。感染者数の落ち着きと、宿泊支援施策により、落ち込んだ経済が持ち直しの兆しを見せている。第六波の懸念はあるものの、この落ち着いた状況が長く続くことが期待されている。

(宮島町商工会)

<悪化傾向を示すコメント>

徐々にではあるが、新型コロナウイルス感染症の影響も弱まり、県で飲食店等に対する経済回復策も打ち出され、回復への期待もあるものの、感染予防策の実施や冬季間の生活に欠かせない灯油価格の上昇による消費者の減退が心配される。

(外ヶ浜町商工会)

コロナウィルスが落ち着いている状況であるが、石油価格の上昇により経営圧迫の兆候が見られる。冬となり灯油を消費していくこれからの季節は更なる負担増となり、現在言われている新たな変異株の流行が見られれば、昨年以上に厳しくなる可能性がある。

(中泊町商工会)

新型コロナウイルス感染症による影響も薄れてきており、全体的に経済情勢は回復傾向にある。しかしながら、原材料高騰や、石油製品を扱う業種では原油価格上昇による経費関連の値上がりが見受けられることから、注視していく必要がある。来月、本市内で経済対策事業の一環として行われるキャッシュレス還元キャンペーンが開始されることから、市内での消費拡大が期待される。

(由利本荘市商工会)

新型コロナウイルス第五波が終息と見られ、各方面で経済活動・行動制限緩和の動きのある期となった。しかし、引き続きウッドショックから始まる資材高騰、海外工場ロックダウンによる建築部材の枯渇、10月に施行となった最低賃金の引上げ、原油価格の高騰といった外的なネガティブ要因に囲まれる状況となった。

(畑野商工会)

新型コロナウイルス感染症の影響が落ち着いてきており、少しずつ市場が動き始めている一方、原油価格の高騰の影響を受け、利益率が悪化している業界が見受けられる。

(本巣市商工会)

2. 製造業

<改善傾向を示すコメント>

機械金属製造業では、材料不足、資材高騰による影響があるが比較的受注状況は今後も好転する見通しである

(羽咋市商工会)

機械金属製造業は、中国の電力不足により鋼材の輸入が遅れているため、製造が大幅に遅れている。

(太子町商工会)

世界的な半導体不足により一部製造できない製品がある。また、資材高騰で製造原価がアップしている。

(備前東商工会 吉永支所)

半導体不足の影響が緩和され、大手自動車メーカーが挽回生産へ向かうなか、「輸送用機械・器具製造」関連業種が上向き傾向にある。

(飯塚市商工会)

<悪化傾向を示すコメント>

繊維工業は一時的な受注増もあったが相変わらず低調である。来年以降に期待したい。機械金属製造業は人手不足により(退職者の補充が出来ない)売上が伸びない。また、定時退社が習慣化してしまい残業を嫌がる社員がほとんど。従って受注量は以前より減っているものの、納期遅れが生じ、効率が上がらない悪循環となっている。

(小矢部市商工会 津沢支所)

<食料品>原材料費の高騰が以前続いており、採算は悪化している。ただ、新型コロナの感染者数の減少により、飲食店の稼働率は好転しており、飲食店向けの製品を扱っている企業を中心に、売上高は増加している。<繊維工業>外出する機会が増加傾向にあることで、衣料繊維の業況は好転している。ただ産業繊維に関しては、半導体不足による新車市場の縮小により、若干のマイナス傾向が見られる。<機械・金属>原材料費の高騰がますます顕著となっており、これまで納入に3か月を要した物品が半年先、1年先となるなど、サプライチェーンの維持に支障を来している。

(射水市商工会)

食品製造の多くは、水産関係のため、市場出荷から飲食店・観光地の土産等が多いため、緊急事態宣言解除に伴い、人の動きが増加し前年同期より増加している。設備投資が増加傾向にあり、金属製造業も前年よりやや増加している。

(大井川商工会)

鉄工所:自動車部品の製造加工を行われている。半導体不足で自動車製造が出来ないと言われているが、末端企業には特に影響は無いとのこと。多少の部品入手難ではあるものの、今のところ大きな影響は出ていない。半導体等の不足が今後どのように自社に影響を及ぼすか不安である。食料品製造業:観光客が減少し、お土産を近所に配る習慣もなくなってきたため、売上が1割減少した。元通り(コロナ前の水準)には戻らないと思う。自動車部品製造業:半導体不足の影響等により減産や停止になり、売上が7割減少した。9~10月も業務が大幅に減少したため、短時間休業を行い、雇用調整助成金を活用した。

(甲賀市商工会)

食料品:観光関連は少しずつ回復の兆しがあり。イベント関連の開催も何件か決まり今後期待したい。繊維工業:コロナの影響を受け全国的に縫製業者が廃業している様子。HPを見て県外からの問合せが増えてきた。受注も来年1月20日までは機械ミシン縫製の仕事が入っており、その後の受注についても引き合いが来ている状況。しかし、手縫い部分の仕事は相変わらず少なく当社の抱える内職さんへの仕事までは回らない。よって、内職縫製者が減っていく一方であり、コロナが収束しても縫い手が減少することで仕事量が来ても対応できなくなりそうである。機械金属:当社の売上は増加傾向。機械・金属製造業の業況は好調ではないか。

(みまさか商工会)

3. 建設業

<改善傾向を示すコメント>

令和3年度末分までの公共工事は大方発注されており、弊社も県・市工事受注済み。民間工事については中山間地域等の水路工事受注で今後の見通しは若干明るい兆し。

(由利本荘市商工会)

木材の高騰により受注減少している。個人客の買い渋りがみられるが、巣籠もり需要でリフォームや外構工事は好である。

(内郷商工会)

引き続き台風復興関連の土木工事・公共工事で繁忙。年度末まで新規工事が受けられない状況。建築関係は、厳寒期前の工事受注で繁忙。材料高騰や納期遅れ等の影響大きい。職人不足・担い手不足も顕著。

(佐久市望月商工会)

建設業関連の事業者は、ウッドショックの影響から仕入価格は上昇しているものの、売上額が増加傾向にあり採算は好転傾向にある。一方で、木材だけではなく鉄材等の不足・高騰の影響から1年先の見通しは不透明な部分もある。

(米子日吉津商工会)

<悪化傾向を示すコメント>

新築受注も有り売上は増加傾向であるが、原油高騰も加わり建築資材高騰に拍車を掛けている感があり、利幅は減少傾向。土木は前年並み。今後本格的な降雪期になが除雪受け持ち業者では燃料高騰を懸念している。

(小平町商工会)

徐々に新型コロナウイルス感染症の影響から回復してきているが、原油価格の高騰が気になり、今後さらに高騰することになると、かなり経営が厳しくなる。

(白神八峰商工会)

先月に引き続きリフォームや土木工事など幅広い分野で受注は確保できている。一方で資材の入手困難・価格高騰が続いており、納期の目途がたたないケースも出てきている。また、原油価格の高騰も続いており、燃料経費が上昇し、採算が厳しいとの声が多く聞かれた。

(栄町商工会)

受注は増えているが、半導体不足やウッドショックによる受けられない業務が増えてきた。また、燃料の高騰も大きな打撃を受けており、利益に結び付かない状況。

(養老町商工会)

給排水設備事業者は、県の観光施設助成などにより宿泊施設などのトイレリフォーム等の需要が多く、仕事が追い付かない状況である。トイレ機器やその接続機器などの資材が毎月のように高騰しており、加えて調達に時間がかかるなどの状況が見られており影響を受けている。

(南伊豆町商工会)

住宅新築やリフォーム工事も受注があるものの、供給制約や資源価格の上昇から、工期延長や遅延などが発生しており、売上回収の遅れや減益になるなど業績の悪化が見られている。トイレや厨房機器など資材の調達が難しいものが増加してきている。

(川西市商工会)

建築関連を中心に受注減少。企業の設備投資や住宅需要が減退している。住宅関連機器、エアコン等、材料の供給不足で製品の入荷待ちの状況も多く聞かれ始めた。

(東温市商工会)

4. 小売業

<改善傾向を示すコメント>

食料品関連の小売業は、町が交付金を活用して町内で使える商品券の販売や給付を行っているため、売上が維持されている。家電関連の小売業は、品不足により販売を逃している商品があるが、修理等の仕事があるため、売上の減少には至っていない。

(南木曾商工会)

観光地等の小売店では10月の自粛明けの勢いは落ち着きを見せたが感染拡大時期と比較すると回復を見せている。その他小売業においては11月の1ヶ月間、行政の消費喚起事業も行われたため、地域内での消費は大きくなったが、事業者間でその恩恵の差が大きくみられる部分もあった。

(海津市商工会)

小売業でも緊急事態宣言が解除された10月下旬以降、11月度も個人消費が回復基調となった。消費は年度末にかけて段階的に回復基調を高めていくと考えている事業者が多く、年末年始への消費拡大に期待を寄せている。

(川西市商工会)

観光動向に直接左右される製造業者は若干の増減はあるものの、小売業全体的に前年同期と比較して大きな変動は見られない。食料品小売業について、新型コロナウイルス感染症の減少に伴い、若干のアフターコロナ需要がみられ、売上が増加傾向にあった。

(あまみ商工会)

<悪化傾向を示すコメント>

小売業においては、全体を見ると依然として厳しい状況にある。特に衣料品・食料品小売業は顧客離れが続いている。食料品小売業では、売れ残りを自家消費しているがやむなく捨てなければならない状況も多くなっている。自動車小売業においては中古車の仕入単価上昇が顕著になっている。

(栗原南部商工会)

衣料品関連の事業者は、商店街発行の商品券や感染状況が落ち着いたため、客足が戻りつつある。しかし、商品の売れ行き状況はまだ鈍く、メーカー側も受注生産としているため、品揃えが十分ではない。食料品関連の事業者は、米価格の下落、りんごの不作、肥料・生産資材高騰による離農が進む懸念があり、来期以降も売上減少が予想される。飲食店向け業務用米の販売はやや持ち直したが、単価が2割以上減じているため利益も減少している。耐久消費財関連の事業者は、商店街独自の商品券発行のため、売上は一次回復したが例年並みである。

(かづの商工会)

衣料品小売りは、県内の感染者が0となっていることから売上は例年並みに戻りつつあるが、客単価が下がっているため、コロナ前には戻りきらない感もある。持ち帰り専門の寿司店は、飲食業界からのテイクアウト進出、強化により競合が増えた影響で売上減が続く。時短営業協力金の支援対象からも外れ、Go To Eat キャンペーンにも参加出来ないため不公平な環境の中厳しい戦いが続く。中古自動車販売業者は、半導体不足に伴う新車の減産計画の影響を受け、中古車需要が高まり、仕入価格が高騰。需要拡大期にむけての仕入資金の確保と中古車両の確保に苦慮している。

(富山市八尾山田商工会)

食料品(生鮮)は12月予約客の注文が伸びておらず、かき入れ時だが厳しい状況が見込まれる。客数だけでなく客単価も昨年より減。耐久消費財は鉄の高騰が仕入値に影響を与えており、10%前後で値上がりしている。

(下関市商工会)

食料品小売業関連の事業者については、11月期は、前年同月と比較すると仕入単価を除いて全体的にやや悪化の傾向にあり、景気動向としても前年に引き続き厳しい状況が続いている。まん延防止等重点措置の解除や感染者数の減少により以前に比べると多少の増加はあるが、現状を見ると一度落ち込んだものがすぐに戻ることはないように感じる。

(あさぎり町商工会)

5. サービス業

<改善傾向を示すコメント>

新型コロナウイルス感染症の影響も若干であるが影を潜めて、人の交流も徐々にではあるが戻りつつあるので、今後を期待をしている状況である。

(外ヶ浜町商工会)

11月中頃になるとお客様が年末に向けて、サイクルを調整してきている。予約がとれないと前もって2ヶ月分の予約をいただいている。新規のお客様が増えてきた。

(潟上市商工会)

サービス関連消費を中心に消費が押し下げられていた感じは、11月に入っては、払拭されつつあり、外出自粛の影響を受けやすい、飲食店を始め対個人サービス関連業での大きな落ち込みから回復基調へと消費の増加が少しずつではあるが見られ始めている。

(川西市商工会)

旅館宿泊業においてはコロナ感染が落ち着いてきたことで客足が戻ってきているようである。対前年並みの水準に戻った旅館もあり、家族旅行などが増えてきている。年明けのGoToトラベル再開の期待感が高い。

(嬉野市商工会)

コロナの収束が見えてきており観光客の入込も増加しており、宿泊業、飲食業また派生する業者も売上高が回復してきている。

(屋久島町商工会)

<悪化傾向を示すコメント>

旅館業についてはGoToトラベルの利用中止により売上が減少した。また、原油高騰により2倍の経費が必要とのことで深刻な状況にある。他のサービス業については同年同月と同様であるが原油高騰が今後影響する懸念がある。

(会津美里町商工会)

クリーニング業の仕入業者からリネン商品の供給が不足して仕入ができない可能性が出てきている。旅行関連事業者・飲食業においては、業績は回復しつつあるが、新型コロナウイルス感染にかかる影響が継続している状況も見受けられ、例年の実績までには至っていない。更に継続した誘客活動も必要という印象がある。

(足尾町商工会)

宿泊業は、自治体のクーポンを利用して割安で宿泊できるため一部の宿泊施設は客足が回復しているが、問合せが少しある程度で開店休業状態の施設も多い。飲食業は、前月同様に日中の売上は回復傾向が続いているが、夜の宴会は非常に少なく、忘年会の予約もあまり入っていない。理美容業は、コロナの影響は少なくなっているが、地区内人口減少・高齢化による売上の減少が続いている。

(妙高高原商工会)

・昨年のGotoによる盛況と比較した場合、状況は良くないと感じる。松葉蟹の高騰によるプラン単価値上げによる影響も懸念される。また、コロナにより繁忙、閑散の波が激しく人材確保にも苦慮している。・県内感染者数が落ち着いている事と、山陰の宿泊者応援キャンペーンが好調な事から売上は増加も、原油価格高騰により販管費も増加。・例年11月は来店が少ない月ではあるが、今年は昨年比でも下回る状況。コロナへの警戒感が弱まってはいるが、来店行動にはつながっていない。

(中部商工会産業支援センター)

宿泊業はコロナの感染拡大が落ち着きを見せていることから、事業者による利用を中心に急速に回復している。一方洗濯業等においては、原油価格の高騰による費用負担の増加が響いてきている面があり、今後長期的に戦略を練っていく必要も感じている。

(四万十町商工会)

旅館・宿泊業においては、前年同月比より売上回復傾向が見られる。資金繰りについては引き続き厳しいものの、今後のリベンジ需要などが期待できる。洗濯業については、コロナ感染症以外の要因として、長引く不況やファストファッションの台頭の傾向も進んでおり、他業種の様な改善傾向が見られない。理美容業についても、来店頻度の回復までは至っていない。

(玖珠町商工会)